

---

**僕はただ、彼女に会いたかっただけ……。**

全力迅雷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕はただ、彼女に会いたかっただけ……。

### 【Nコード】

N9119P

### 【作者名】

全力迅雷

### 【あらすじ】

会いたい、ただそれだけを目指にした主人公のちょっと悲しいラブストーリーです。

(前書き)

初めてバットエンドを書いてみました。

暗い、とても暗い闇の中に僕は佇んでいた。どこを見回しても闇。自分の足先さえ見えない、とても暗い闇。

「本当にそれでいいんだな、人間。俺たち悪魔と契約したらどうなるか」

「いい、分かっている」

「……なら、いいんだが」

最後の確認を手早く終わらせる。そんなことぐらい分かっているさ。悪魔と契約して、自分の体が無事でいられるなんて思って無い。それでも、僕はこの道を選んだ。こんな命ならいくらだってくれる。やる。

彼女に、彼女に会えるのなら。

彼女にあつたのは、もう2年前ほどになるだろうか。最近の日課になっていた、鳩の餌やり。そこまで広くはない公園でパンくずを与えていた時だ。急に後ろから声をかけてきて

「私にもそのパンくれるかしら」

なんて言ってきた。もちろん僕は承諾したさ。動物を可愛がるのは僕1人の特権じゃないからね。

「ふふっ。ありがとう」

そう微笑む彼女の顔はとても神秘的だった。餌をあげている姿すら、どこか神々しく感じてしまったぐらいだ。彼女の慈愛に満ち溢れた笑顔に、僕の心はすっかり奪われてしまっていた。

僕はその日から毎日その公園に通った。もちろん、彼女に会った

めという下心満載な目的のためだ。そして彼女も、毎日公園に来た。2人で餌をあげている時間は、とても幸せだった。いつまでも、こんな時間が続けば良いと思った。この人と恋仲にならなくてもいい。ただ、一緒にいる時間が少しでもあればそれでいい、とそう願った。でも神様は、そんな僕の願い事を叶えてはくれなかった。

いつものように公園で鳩に餌をあげていたとき、急に突風が吹いた。枯葉が空に舞い、空き缶が地を転がり、雑誌がトイレの壁にぶつかる。そんな光景に目を奪われていたら、いつの間にか鳩たちが居なくなっていた。

その日、彼女は公園に来なかった。後から噂で聞いた話だと、彼女はこの公園に来る途中交通事故に遭ったらしい。トラックに跳ねられて即死だったらしい。

この日から僕は変わった。変わってしまったとでも言うべきだろうか。拙い知識を元に黒魔術を必死に勉強した。集まられる知識は全て吸収する。最初は簡単な術から試していき、徐々に難易度をあげていく。目標は、そう悪魔の召喚だ。

悪魔の契約とは、自分の魂を捧げることで自分の願いを一つ、何でも叶えてくれるというものだった。

僕は必死で勉強した。周りからどんな蔑んだ視線を向けられようと、彼女はもう居ないと何回言われても、僕は諦めなかった。

そして遂に2年経った今、悪魔の召喚に成功した。

『彼女に会わせてくれ』という悪魔との契約も良好に進んでいる。

後は、この目の前に居る悪魔が彼女を蘇らせてくれれば、自分の願いは叶われる。

「よし、もういいぞ人間。蘇生の儀式は終わった。契約の時だ」

闇の中でも何故かはつきりと姿が見える悪魔が、そう告げる。遂に、遂に僕の願いが叶う。彼女に会いたい。ただそれだけを目標にしてきた。

「さあ、人間お待ちかねの彼女様だぞ？」

そう言った悪魔の前に居たのは。

全身の骨という骨が折れているかのように体が曲がり、口から血を垂らしている、そんな見るも無残な姿の彼女だった。

「ッ！」

「ゲババババツ！愚かな人間だ。お前との契約は『彼女に合わせる』これだけだ。どんな姿かなんて聞いちゃいない。復活の際にちよっくら遊ばせてもらったぜ！」

ゲバババババツと悪魔の笑い声が聞こえる。もう何も考えられなくなつた頭の中で聞こえてきたのは

「契約完了だぜ？早速お前の魂を頂くとするか」

自分の意識が周囲の闇と同化する。

それでも僕は、彼女に会いたい

僅かに動いた闇が、彼女の体を包み込んだのは、悪魔の見間違いではなかつただろう



(後書き)

んちゃんと書けているのか……感想待ってます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9119p/>

---

僕はただ、彼女に会いたかっただけ……。

2011年1月8日20時10分発行